

戦争か平和かせめぎ合いの情勢のもと、核廃絶の道を切り開こう

今年で65回目となる原水爆禁止国民平和大行進が山形県に引き継がれ、6月21日(火)午後6時に山形市第二公園で山形県都集会を開催、引き続き山形市役所まで行進しました。コロナ禍のため集会と行進は3年ぶりですが40名が参加しました。



いま、核大国のロシアが国連憲章を踏みにじてウクライナを侵略し、わが国では自民党や維新の会の政治家が米軍との「核共有」を主張するなど、核戦争の危機をつくり出しています。一方では核兵器禁止条約の第1回締約国会議がこの日にウィーンで開催され、わが国の参加が強く求められています。集会では山形県原水協の伊藤英三代表委員(写真)が挨拶し、いのちを奪う戦争を絶対に許さず、二度と核兵器による犠牲者を生み出さないことを強く訴えました。また、戦争か平和かの大きなせめぎ合いの中での参議院選挙をたたかい、核兵器禁止条約に賛成する政府をつくりましようと呼びかけました。



次いで6月22日(水)午前9時、山形市役所を山形県原水協の勝見 忍代表委員(下写真の右から2人目)をはじめ3

名で訪問し、広報課の池田課長(同左から2人目)に対応いただきました。山形市では平和事業として、長崎大の学生による小中学校での講演会等の積極的な活動を行っています。今年はウクライナへの支援募金を行いたいと実行委員会から声が上がっており、山形市にとって特別な年だと思っているとお話を伺いました。

